

独立行政法人福祉医療機構
平成26年度社会福祉振興助成事業

食でつなげる 高齢者コミュニティ支援事業報告書



平成27年3月

認定特定非営利活動法人セカンドハーベスト名古屋



報告書目次

はじめに.....	2
1. セカンドハーベスト名古屋の活動と本事業取組の背景.....	3
2. 助成事業による成果の概要と今後の課題.....	4
3. 愛知県における高齢者サロンの活動.....	5
4. 事業報告 (1) 高齢者支援団体への調査活動.....	6
5. 事業報告 (2) 事例発表会を含むシンポジウムの開催.....	10
6. 事業報告 (3) 食品配布活動.....	11
7. 事業報告 (4) 食料支援とつなぎ支援.....	21
8. 参考資料.....	24



はじめに

現在65歳以上の高齢者は3,186万人(平成25年9月時点)と、総人口の約25%を占めています。今後はさらに増加し、平成47年には33.4%となり実に3人に1人が高齢者になると見込まれています。このように「前例のない高齢社会」を迎えた日本では介護・医療・社会保障費の増大など様々な問題を抱えています。とりわけ深刻なのが、一人暮らしの高齢者の問題です。平成22年には498万人でしたが、平成47年には762万人に急増し、高齢者世帯の約4割が一人暮らしとなります。特に都市部でその比率が高く、愛知県では全国平均を上回るペースで増加することが予測されています。もちろん一人暮らしでもいきいきと暮らしている高齢者もいますが、社会的に孤立してしまう場合もあり、生き甲斐を無くす、消費者被害を受けやすくなる、高齢者自身が犯罪を犯す、孤独死などの問題を抱えています。そこで高齢者が孤立しないよう、「見守り」や「居場所づくり」の役割を担う「高齢者サロン」の存在がますます重要なとなっています。

一方、フードバンクには食品ロスを減らす「環境」の側面と生活困窮者に食料支援をする「福祉」の側面、そして各種支援団体へ食品を配布することにより活動経費(食費)を減らし団体の活動を支える「団体支援」の側面があります。そこで私達セカンドハーベスト名古屋では今後ますます深刻になる高齢者の孤立を防止するため、高齢者サロンの活動を活性化させ、さらには高齢による貧困へも支援が行えないかと考え、独立行政法人福祉医療機構(以下W A M)の助成をうけ「食でつなげる高齢者コミュニティ支援事業」を2014年4月～2015年3月まで実施しました。その詳細を以下にご報告致します。



助成事業の概要

事 業 名	食でつなげる 高齢者コミュニティ支援事業
助 成 金 額	452.9万円
事 業 概 要	日本人・外国人問わず高齢により生活困窮者や孤立している人を地域で支え合う仕組みづくりを目的に、フードバンクの食品を高齢者サロンや訪問活動を行う団体へ提供し、それぞれの団体の活動を活性化する事業
実施した4つの事業	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者支援団体への調査活動 2. 事例発表会を含むシンポジウムの開催 3. 食品配布活動 4. 食料支援とつなぎ支援

1 セカンドハーベスト名古屋の活動と本事業取組の背景

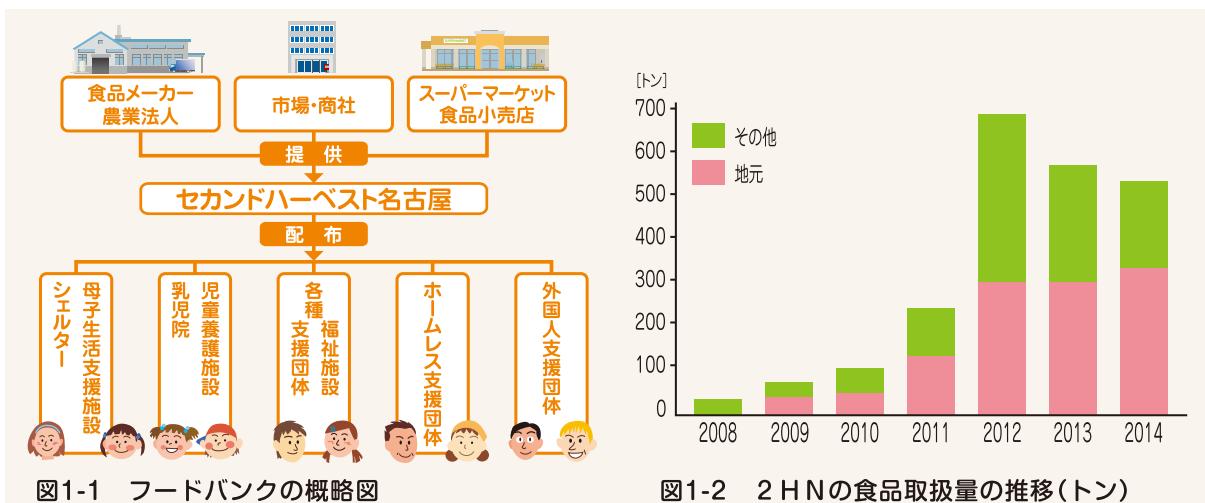
セカンドハーベスト名古屋とは

セカンドハーベスト名古屋(以下、2HN)は東海地方最大のフードバンクです。平成20年に名古屋に住む有志が集まり、平成21年にNPO法人格を取得し本格的に活動を開始しました。食品の引取り、仕分け、配布、また入出庫の管理、広報活動などをボランティア約20名が行っています(正会員47名 賛助会員21名)。

そして、平成27年3月名古屋市より認定を受け「認定NPO法人」になりました。

食品関連企業から定期的あるいは不定期に、包装破損、印字ミス、賞味期限が迫った等の理由で「食べられるにも関わらず捨てられる運命の食品(食品ロス)」の無償提供を受け、生活困窮者を支援している団体や各種福祉施設・団体へ無償で配布しています。

平成26年度は511トンの食品を91の企業や多くの個人から寄付いただき、259の施設・団体へ配布しました(511トンの食品を小売価格に換算すると約3億円に相当)。食品取扱量は前年度と比較すると減少したものの、約64%の食品を地元の食品会社から集めることができました(前年度は約55%)。



見えてきた課題 見えない貧困

活動を開始して6年目になり見えてきた課題は、「各種支援団体や各種制度の狭間に陥った人への支援が行えていないのではないか?」ということでした。このように狭間に陥った人は私達支援団体からも見えにくく、どのようにアプローチしてよいかわかりませんでした。

一方食品ロスは年間500~800万トンも発生しており日本のお米の年間生産量に匹敵する膨大な量です。しかし、フードバンクが扱っているのはそのうちわずか0.1%にしかすぎません。食品ロス削減の観点から、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品を有効に使う先を見つける必要がありました。

そんな中、平成25年度から地域で活動する高齢者サロンから食品提供の問い合わせを多く受けるようになりました。当初高齢者は私達の配布対象外だと考えていましたが、食品を配布し続けることで様々な効果が見られるようになりました。高齢者サロンの経費を節約することで活動の活性化が期待できるだけではなく、高齢者サロンは地域に根ざした活動をしていることから、地域に潜んだ見えない生活困窮者への食品を届ける道筋になるのではないかと考えられました。

そこで、まず各サロンの現状とフードバンクに対するニーズ調査を行いました(事業1)。次にまだ低いフードバンクに対する認知度を向上させるためシンポジウムを開催しました(事業2)。そして実際に食品を配布し、その効果を確かめました(事業3)。さらに孤立だけではなく生活困窮に陥った人への支援のためサロンや社会福祉協議会(以下、社協)、行政機関と連携した緊急食料支援を行いました(事業4)。

2

助成事業による成果の概要と今後の課題

1. 全体の成果概要

アンケート調査、シンポジウムとともに、「高齢者サロン」訪問活動や2HNパートナー団体からの働きかけを通じ、新たに10件の民間サロンへの直接配布、パートナー団体を通じて32件の民間サロンへの間接配布が始まった。

また、対象を大きく拡大する上で、地域の高齢者サロンを所管する市区町村の社協との連携が必要であると考え、PR活動を進めた結果、6か所の市区社協を通じて食品を配布する試行を行うことができた。

一方、高齢者を含む生活困窮者の発掘と支援を行う点でも、市区町村の役所や社協などの行政関連機関との連携が必要と考え活動を進めてきたが、愛知県内の行政関連機関からの食品支援要請が30件/月を超えるようになった。

これらにより、孤立し困窮する高齢者を支援するセーフティネットに参加し、「もったいない食品」を有効に活用することで彼らを支える仕組みが構築されつつあることこそ最大の成果である。

2. 反省と今後の課題

本事業活動期間では、地域の高齢者コミュニティを支援し、孤立する高齢者の生活困窮者を見つけだし支援するネットワークつくりの端に着いたに過ぎない。

より多くの「高齢者サロン」に「もったいない食品」を配布するとともに、高齢者の生活困窮者を見つけだし支援するネットワークつくりには、我々の既存のネットワークだけでなく、地域の「高齢者サロン」を所管する市区町村の社協との連携が必須であると考える。

そのためには、市区町村の社協にその地域の「高齢者サロン」へ食品を配布する「拠点」となって頂くよう、我々は働きかける努力を続けねばならない。

拠点としては、その地区の高齢者サロンのニーズ(サロン運営上、どのような食品をいつどれだけ必要とするか)を把握し、食品の手配、受領、適正な保管、配布と記録が必要であるが、これらの手間が本事業拡大のネックとなると懸念される。

これまで、我々はフードバンクとして食品を無償で提供いただき無償で配布するしくみづくりに注力しており、積極的に「食品を必要とする人(生活困窮者など)」を見いだしてきたとは言えない。

「食のセーフティネットを構築する」という大きな理念を実現するためには、一般市民、企業、行政などの協力者にとって協力しやすい仕組みを作っていく、協力者を増やす努力を続けねばならない。

3

愛知県における高齢者サロンの活動

「地域を拠点に、住民である当事者とボランティアとが協働で企画をし、内容を決め、共に運営していく楽しい仲間づくりの活動」のことを「ふれあい・いきいきサロン」と呼ぶ(※1)。

表3-1 ふれあい・いきいきサロンの4要素

参加者	拠 点	プロ グラム	頻 度
<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者 ●障害者 ●子育て家庭 ●地域住民全般 	<ul style="list-style-type: none"> ●自宅 ●集会所、公民館 ●専用拠点 ●空き店舗、遊休施設 	<ul style="list-style-type: none"> ●フリースペース型 (お茶とおしゃべり等) ●学習会 ●軽スポーツ ●趣味、演芸活動 ●伝統芸能等 ●季節のイベント 	<ul style="list-style-type: none"> ●毎日 ●週2~3回 ●週1回 ●月数回 ●月1回

そもそもの起りは、平成6年ひきこもりや閉じこもり、孤立といった状況が社会的に問題視されはじめるなか、全国社会福祉協議会が全国的に呼び掛けたことがきっかけで広がった。その数は年々増加しており、全国で約6万(平成24年4月時点)を越えている。特に、高齢者を中心としたサロン活動が盛んであり(全体の約8割)、介護予防や民生委員も加わることで地域に住む支援を必要とする人に対して、早期にニーズを把握できることなども注目されている(以下、参加者が高齢者中心のサロンを高齢者サロンと呼称)。

愛知県内でも各地の社協が中心となり開設を呼び掛け、平成24年度末には1,052カ所の高齢者サロンが開設されている。以下に高齢者サロンの主な活動内容と高齢者サロンの主な効果を記す。

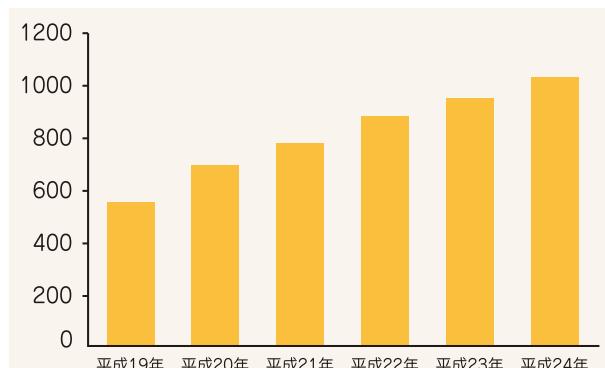


表3-2 高齢者サロンの主な活動内容

お茶とおしゃべり	健康維持の活動	学 習	趣味の活動
<ul style="list-style-type: none"> ●お茶やジュースを飲みながらの会話や食事会など 	<ul style="list-style-type: none"> ●軽い体操や散歩、ボランティアによるマッサージなど 	<ul style="list-style-type: none"> ●保健師を招いて保健衛生の講座や防災活動を行う団体スタッフを講師に招いて地域防災の学習会など 	<ul style="list-style-type: none"> ●手芸や絵画、音楽鑑賞、カラオケなど

表3-3 高齢者サロンの主な効果

社会とのつながりができる	心と体の健康維持
<ul style="list-style-type: none"> ●高齢になるにつれ社会的な活動が少なくなり、人間関係はだんだん薄くなっていく。しかし、サロンに参加することで、これまで話すことのなかった人たちとも関係を持つことができ、地域でのつながりができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運動が必要なことがわかっていても義務感だけでは続かない。しかし、サロンに参加することで、仲間と楽しく取り組むことができる。また、サロンに出かけて行くこと自体が「心のハリ」をもたらす。
見守り機能の構築	情報共有
<ul style="list-style-type: none"> ●参加者や担い手でお互いに見守りを行う仕組みをつくることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●近所の同世代、同じ課題を抱えている人が集まるから、悩みを共有したりお互いに情報交換することができる。

4

事業報告(1)高齢者支援団体への調査活動

1. 目的

サロン活動を行っている団体の現状とフードバンクに対するニーズを把握し、2HNのPRと今後の活動に活かす。

2. 調査先

名古屋市市内を中心に愛知県内でサロン活動や訪問活動を行っている団体。調査地域件数は右記に示す。

3. 調査期間

平成26年8月～9月

4. 調査方法

連携団体や社協から調査を依頼し、引き受けた団体へアンケート用紙を配付した。

5. 調査結果

回答率100%(57団体へ依頼しすべてから回答を得た。)

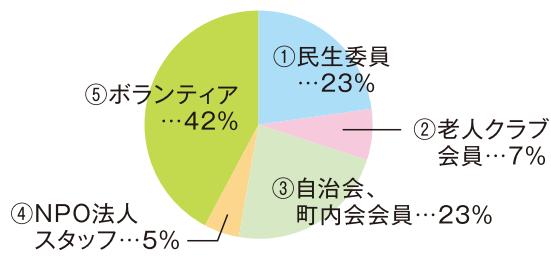
表4-1 調査地域と件数

地 域	件 数
名古屋市内	41
一 宮 市	10
小 牧 市	3
豊 田 市	2
知 多 市	1
合 計	57

(1)代表者の立場について

ボランティアが運営しているサロンが最も多かった(42%)。

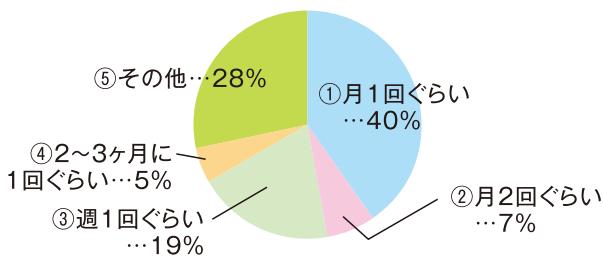
図表4-1 運営代表者の立場



(2)サロン開催頻度について

月1回ぐらいの開催が最も多かった(41%)。

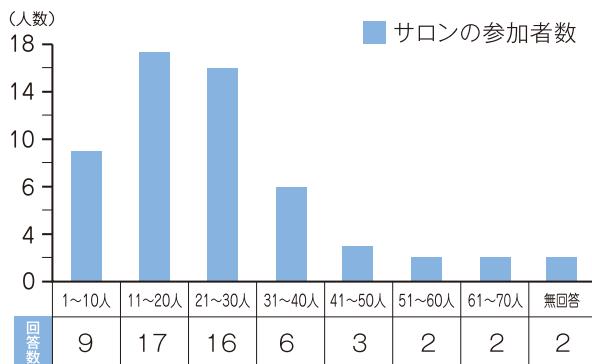
図表4-2 サロンの開催頻度



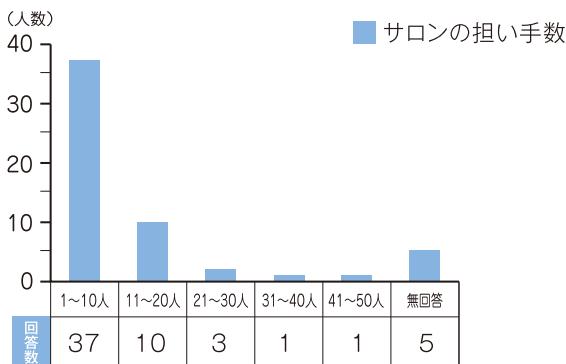
(3)サロン参加者について

参加者は10～20人が最も多く、扱い手は10人以内が最も多かった。

図表4-3 サロンの参加者数



図表4-4 サロンの扱い手数

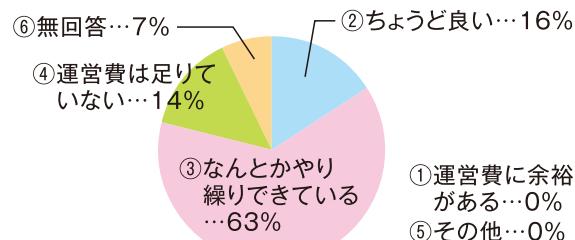


事業報告（1）高齢者支援団体への調査活動

(4) 活動の運営費について

最も多かったのは、なんとかやり繕りできている状態であった(63%)。

図表4-5 サロン運営状況

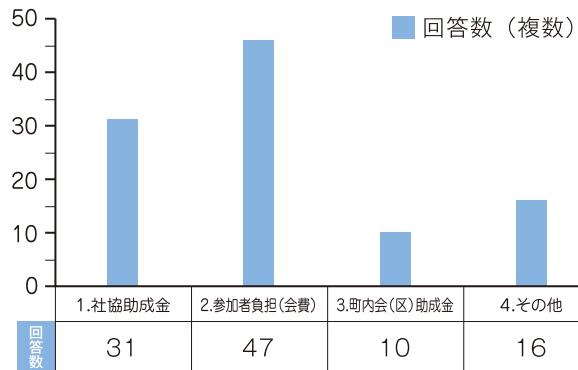


サロン運営状況	回答数	割合
①運営費に余裕がある	0	0%
②ちょうど良い	9	16%
③なんとかやり繕りできている	36	63%
④運営費は足りていない	8	14%
⑤その他	0	0%
⑥無回答	4	7%

(5) 活動の収入について 複数回答

参加者の会費が最も多く、次いで社協からの助成が多かった。

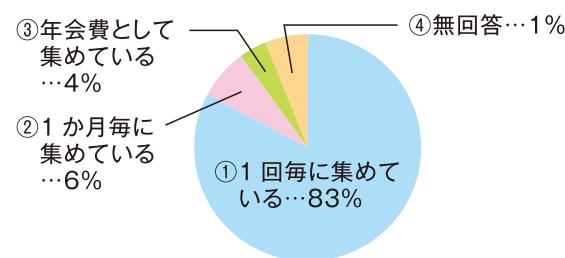
図表4-6 サロンの収入方法



(6) 参加費について

最も多かったのが1回毎に集めており(83%)、その金額は約200円であった。

図表4-7 会費の集め方

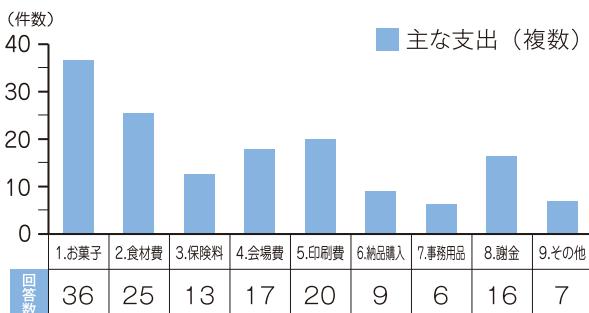


参加費について	回答数	割合	平均額(円)
①1回毎に集めている	39	83%	239
②1か月毎に集めている	3	6%	667
③年会費として集めている	2	4%	4,500
④無回答	3	1%	

(7) 活動の支出について 複数回答

お茶菓子や食材費が最も多かった。

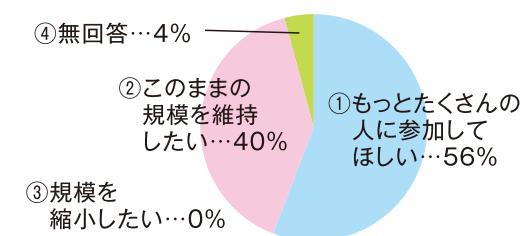
図表4-8 主な活動支出



(8) 今後の活動について

もっとたくさんの人に参加してほしいが最も多かった(56%)。

図表4-9 今後の活動について



参加費について	回答数	割合
①もっとたくさんの人に参加してほしい	32	56%
②このままの規模を維持したい	23	40%
③規模を縮小したい	0	0%
④無回答	2	4%

(9) 今一番困っていることについて 自由記述

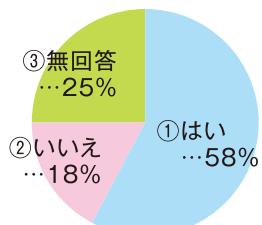
- ボランティアの高齢化で宅老所の維持が難しくなっています。学生さんも時々こられますが期間が限られているので若い方のボランティアが増えてくれるのを望んでいます。
- 地域、近隣の方々の利用がもう少し増加するといい。
- 参加者が増えない。場所が狭いこともあり大勢呼べない。マンネリ化。
- 参加者が固定化してきつつある。もっと多くの地域の方々が参加できるよう検討中
- 月一回の開催では少ないとの声あり。月2にできると良いが他の協力者の負担になつてはいけないので…。夏場、高齢者の外出は難しいので、7・8月の集まりが悪い。
- コミセンの調理上が狭い。調理要員(ボランティア)が少ない。

- 給食会やサロンへ諸事情で出かけられない人に、配色サービスを行いたいですが、(年2回程)人数が100名程になるため、現在1回のみ行っています。少しでも負担少なく
- 参加者数が安定していないため、お菓子や飲料品があるとありがとうございます。
- 運営負担
- プログラム内容
- 参加者固定化・不足。
- 特にないが。会場から遠いところに住んでいる方にはきてもらいたい。
- 食材費などが高くなり今までのサービスが続けられるかどうか
- 人材不足
- メンバーの定着代
- 担い手不足
- 活動資金が足りないです。
- 電話連絡するための通信料・電話代・手紙代の経費が意外にかかり、会といち個人の区別が難しい。
- 資金不足
- 若者・子どもの参加者が少ない
- 月2回開いているがその時によって参加者の数がつかめない
- 参加者の範囲が広い為送迎が困っています。
お茶菓子はボランティアが自己負担
- 食材高騰

(10) フードバンクからの食品受取希望について

58%の団体がフードバンクからの食品の受取りを希望していた。

図表4-10 フードバンクからの食品受取希望

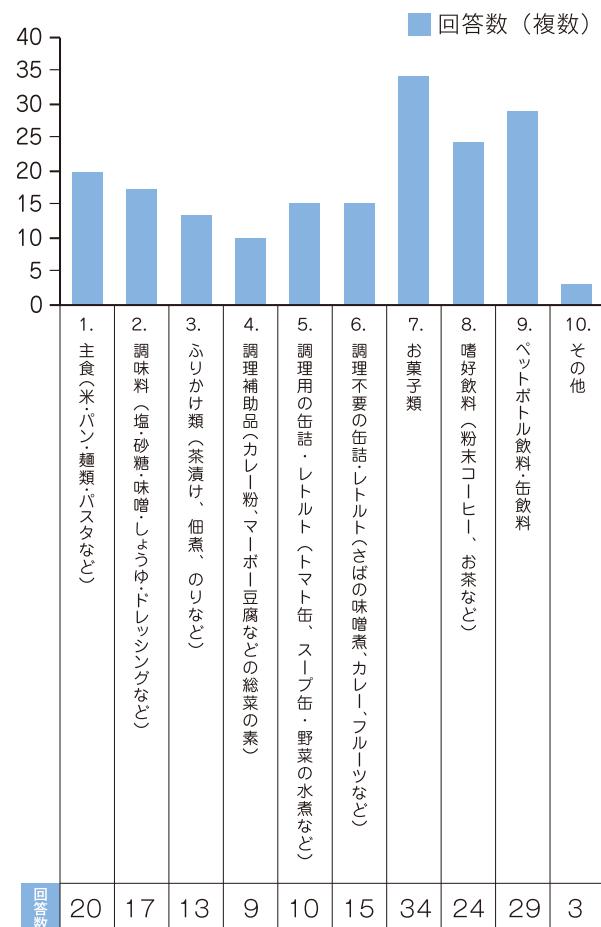


フードバンクからの食品受取希望の有無	回答数	割合
① はい	33	58%
② いいえ	10	18%
③ 無回答	14	25%

(11) フードバンクからどのような食品を希望するかについて 複数回答

お茶菓子、コーヒー、ジュースなどの希望が最も多かった。

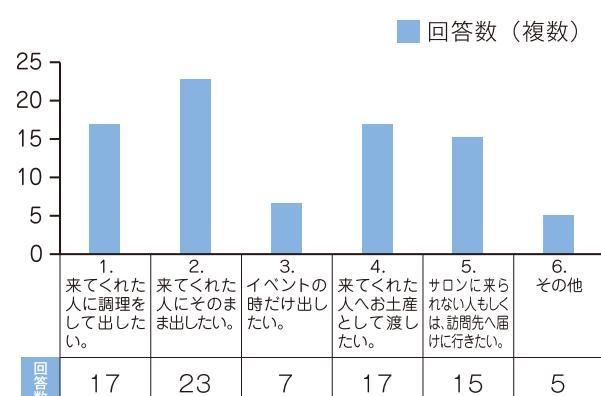
図表4-11 希望するフードバンクの食品の種類



(12) フードバンクからの食品をどのように使いたいのかについて 複数回答

来てくれた人にそのまま出したいと考えている団体が最も多かった(69%)。

図表4-12 フードバンクからの食品の使用方法



6. 調査結果と考察

今回調査対象となった高齢者サロンの多くは、月1回10名以下のボランティアが担い手として主に名古屋市内で活動しており都度約10～20人が参加していた。

上記高齢者サロンの運営面の現状とフードバンクに対する意見と考察を以下に示す。

【運営面の現状】

社協からの助成や参加費により運営しているが、一番大きな支出がお茶菓子や食材費であり、何とかやり繕りできている状況である。今後はもっと沢山の人に参加してほしいと考えていた。

考 察

自由記述の「今一番困っていること」の回答から、多くのサロンで「いつも決まった人しか参加しない」「担い手が不足している」というヒトの問題と、「マンネリ化」「多くの地域の人が集まるイベントがない」というプログラムの問題と、「活動資金が足らない」「食材費の負担が大きい」などカネの問題を抱えていると考えられる。当初の予想では「運営費は足りていない」「もっとたくさんの人々に参加してほしい」と答えるサロンがもっと多くあると考えていたが、高齢者自身が運営しているという理由から思うように活動を活性化させられず現状維持で精一杯であることが推測できる。

【フードバンクに対する意見】

半数以上がフードバンクから食品の受取りを希望し、具体的にはお茶菓子、コーヒー、ジュースなどを参加者へそのまま出したいと考えていた。

考 察

支出で最も大きかったのがお茶菓子や食材費であることから、フードバンクの食品を受け取ることにより運営費が大きく浮くことが考えられる。浮いたお金で新たなイベントやプログラムを開催し、参加者や担い手を集めることができるほか、必要な備品を購入することで活動の質を高めることもできる。当初の予想ではもっと多くの団体がフードバンクからの食品受取を希望すると思っていたが、高齢者自身が運営しており倉庫まで車で引き取ることが難しいことや、そもそもフードバンクの認知度が低いことから、「フードバンクの食品の受取を希望しない」や「無回答」が多かったと推測できる。

7. 今後の課題

高齢者サロンは高齢者自身が運営していることから急激に活動を活性化することは難しい。しかし、一番大きな支出がお茶菓子代や食材費であることから、フードバンクからの食品を配布することで高齢者サロンの活動を支援できるのではないかと考えられる。そのためにもまずはフードバンクの認知度を向上させ、次に引取が難しい高齢者サロンのためにも地域ごとの拠点をつくり配布を増やしていくことで、各サロンの活動がより一層活性化するのではないかと考えられる。

5 事業報告(2)事例発表会を含むシンポジウムの開催

1. 目的と内容

高齢者サロンを運営している人やこれから運営しようとしている人、及び社協のサロン担当者に対するフードバンクの広報を目的に、フードバンクの食品を使ったサロン活性化の事例を報告した。

2. 日時、場所

平成26年11月27日(金)18時30分～20時30分
ワインクあいち 1208号室

3. 講演内容と講師

- ①高齢者の現状
中日新聞編集局生活部 編集委員 白井康彦
- ②アンケート調査報告
セカンドハーベスト名古屋事務局 山内大輔
- ③コミュニティカフェ実践例
雁ぶら物語 事務局長 吉川富士子
まちの縁側GOGO！ 主宰 永井充
- ④他地域の実践例
地域福祉サポートちた 理事 事務局長 市野めぐみ
あいあいねっと 理事長 原田佳子



写真 5-1 参加者の様子



写真 5-2 講演の様子

4. 受講者

サロン運営者や社会福祉協議会サロン担当者、高齢者サロンやフードバンクに関心のある一般市民等54名

5. 受講者アンケート結果

54名に配布し41名から回答

約80%の参加者が「とても満足」「満足」と回答

良かった理由として最も多かったのが「役立つ情報が得られた」27名

その他良かった点具体例

- 地域活性を思う中での手立てを教えてもらえたと思います。
 - 地域団体の活動の様子がわかり、本団体でも取り入れる上での参考となった。
- 良くなかった理由として最も多かったのが「役立つ情報が得られなかった」3名
- その他良くなかった点具体例
- セカンドハーベスト自身の活動と他団体との協働の様子を聞きたかった。

6. 今後の課題

アンケート結果からフードバンク・高齢者サロンに係わる人にとって満足のいく内容であった。しかし、良くなかった点の具体例にあるようにフードバンク自体の知名度の低さも見受けられたことから、一層の広報の拡充を図る必要があると考えられる。

6

事業報告（3）食品配布活動

1. 活動内容

- (1)直接配布 パートナー団体登録して頂いた個別の「高齢者サロン」への食品配布
 (2)間接配布 ①パートナー団体登録している再配布団体を通じて、その団体の所管する
 　　「高齢者サロン」への食品配布
 ②市区社協の所管する「高齢者サロン」、「ふれあい給食会」への食品配布

注：2HNでは食品配布に際しパートナー団体登録して頂き、食品の取扱についての約束事の取決めをしている。
 再配布団体とは2HNから受け取った食品を別団体へ配布するパートナー団体のことをいう。

2. 活動期間

- (1)直接配布 平成26年4月～平成27年3月
 (2)間接配布① 平成26年4月～平成27年3月
 (3)間接配布② 平成27年1月～平成27年3月

3. 活動結果

以下の活動実績は、平成27年2月末までの実績を示す。

(1)直接配布

活動期間において、新たに10件の「高齢者サロン」がパートナー団体となった。

表6-1 高齢者サロンへの直接配布実績

	サロン名称	サロン所在地	配布重量(kg)	配布開始年月	備考
1	まちの縁側GOGO!	名古屋市東区	1,214	H25.11.21	別紙 6-1
2	雁ぶらサロン	名古屋市瑞穂区	1,753	H26.6.2	別紙 6-2
3	ヨハネいきいきサロン	名古屋市瑞穂区	333	H26.6.17	別紙 6-3
4	一寸奉仕こまき（たまり場城山）	愛知県小牧市	767	H26.8.4	別紙 6-4
5	南柏谷ハウス	愛知県知多市	2,510	H26.10.2	別紙 6-5
6	明倫学区福祉推進協議会	名古屋市東区	210	H26.11.10	別紙 6-6
7	まちの縁側クニハウス & まちの学び舎ハルハウス	名古屋市瑞穂区	254	H26.11.27	
8	グリーンピューアイキイキお元気サロン	名古屋市守山区	209	H26.12.2	別紙 6-7
9	ふれあい四丁目サロン	名古屋市南区	64	H26.12.16	
10	まちの達人	名古屋市北区	42	H27.1.26	
11	お達者会	名古屋市北区	2	H27.2.23	
計			7,358		

(2)間接配布①再配布団体経由

表6-2 再配布団体経由の高齢者サロンへの間接配布実績

再配布団体名称	再配布団体所在地	対象サロン数	配布重量(kg)	備考
のわみ相談所	愛知県一宮市	12	14,494	別紙6-8~10
トルシーダ	愛知県豊田市	3	1,174	別紙6-11、12
フードバンクプロジェクト@ちた（以下、FBP@ちた）	愛知県常滑市	14	5,575	別紙6-13、14
ライフステーションあいち（以下、LSあいち）	名古屋市北区	3	2,169	別紙6-15
計		32	23,412	

(3)間接配布②市区社協経由

市区の社協では、所管の民間の「高齢者サロン」の支援と学区の民生委員の運営する「ふれあい給食会」の支援を行っており、社協を拠点として「高齢者サロン」や「ふれあい給食会」に食品を提供できないか模索すべく、本年1月から協力して頂ける社協で試行を開始した。

表6-3 市区社協を通じての高齢者サロンへの間接配布実績

社協名称	民間サロン	ふれあい給食会	配布重量(kg)	備考
名古屋市昭和区	3	0	129	
名古屋市瑞穂区	16	0	123	
名古屋市天白区	0	9	123	
名古屋市名東区	11	0	231	
名古屋市南区	4	0	41	
愛知県長久手市	10	0	94	
計	44	9	741	各市区社協では各々 20～50 団体の民間サロンを所管しており、サロン運営者交流会等を通じ情報交換を行っている。また学区毎の民生子ども委員の運営するふれあい昼食会を支援している。

4. 効果測定

今年度食品配布した「高齢者サロン」に対し、その効果測定としてヒアリング調査を行った。
 その結果を別紙6-1～15に示す。

フードバンクの食品は概ね高齢者サロンに喜ばれており、その活動を下支えしていることがわかった。

効果測定調査票

別紙6-1



■代表者



■活動場所の全景



■活動状況

団体名:まちの縁側GOGO!

代表者:永井 充

所在地:名古屋市東区代官町29-18

柴田ビル1F

調査日:平成27年2月4日

調査者:2HN 本岡

1. サロン運営の目的は何ですか?

地域活性化のために、私費を投じて様々な催しを企画実行するなかで、老若男女がくつろいで集まる場を設けようとした。結果年配者中心

2. サロンの開催頻度と参加者、参加費用は?

開催頻度:ほぼ毎日 参加者:10~15人程度 参加費:500円/回

3. 参加者はどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?

主に60~70代、80代もおられます。

4. サロンの担い手は何人でどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?

永井充氏ひとり。必要な時だけ時給1000円で来てもらっている。食品衛生管理者の資格を取っている。

5. フードバンクから主にどのような食品を受領し、どのように活用されていますか?

一番のメインは野菜類、バナナ等で不定期にサロンで調理して参加者で食事する。
その他は飲み物、お菓子。

6. フードバンク活用の効果を教えてください。

(1) サロン開催頻度と参加者の増減は?

フードバンクから提供を受けるようになって会合のサービスが濃くなった。人数は減らなくなつた。増えたぐらい。

(2) サービス内容の変化は?

冷凍食品を使って料理を提供できるようになったし、提供する飲み物もいろいろだせるようになった。

(3) 担い手(ボランティア等)の活動の変化は?

基本的には永井さんがひとりでやっている。

(4) サロン運営費用面での変化は?

フードバンクから提供を受けるようになって会合のサービスが濃くなつた。人数は減らなくなつた。増えたぐらい。

(5) その他変化があれば教えてください。

歌の会や映画鑑賞会等の集まりが良くなつた。

7. 調査者所感(調査者が記入)

東区葵学区を中心に、写真館を経営しながら地域で活動してきて「まちの縁側GOGO!」を引き継いで5年目。意欲的に活動を続けられてフードバンクの提供食品が力になっている。

効果測定調査票

別紙6-2



■代表者

■活動場所の全景



■活動状況

団体名:雁ぶら物語

(店名:雁ぶらサロン)

代表者:吉川 富士子

所在地:瑞穂区雁道町2-21

メゾン青木1F

調査日:平成27年2月6日

調査者:2HN 前川

1. サロン運営の目的は何ですか?

地域の高齢者の方たちの憩いの場つくり。

2. サロンの開催頻度と参加者、参加費用は?

開催頻度:ランチは2回/週(他に麻雀、フリーマーケット等実施)

参加者:ランチは8~18人程度 参加費:500、800円/回

3. 参加者はどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?

主に地域の高齢者(女性の方が多い)。近くの老人ホームやグループホームの方も来られる。

4. サロンの担い手は何人でどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?

2~3名:50,60代のボランティアの女性。お客様が手伝ってくださることも多い。

5. フードバンクから主にどのような食品を受領し、どのように活用されていますか?

毎週月曜日に2HNに取りに行く。野菜他各種食品を頂いている。

6. フードバンク活用の効果を教えてください。

(1) サロン開催頻度と参加者の増減は?

参加者が増えた。

近所のおかみさん達も来るようになった。

(2) サービス内容の変化は?

ランチの品数が増えた。

お菓子、お茶が存分にだせ、午後のコーヒー(50円)は人気。

(3) 担い手(ボランティア等)の活動の変化は?

色々な方が来られるようになり楽しい。

(4) サロン運営費用面での変化は?

家賃他必要経費に10万円/月かかり、ギリギリであったが、食材分担になった。

(5) その他変化があれば教えてください。

メニュー、品数が増えた。

フードバンクの食材からメニューを考えるようになった。

7. 調査者所感(調査者が記入)

当日は入れ代りで20人程度が来店し、大賑いで非常に活気があった。

ボランティア女性が高齢者の方々を元気付け、楽しい食事時間を作っているのが分かった。

事業報告（3） 食品配布活動

効果測定調査票

別紙6-3



■代表者



■活動場所の全景



■活動状況

団体名:ヨハネいきいきサロン

代表者:清 公一

所在地:名古屋市瑞穂区関取町146

調査日:平成27年2月18日

調査者:2HN 前川

1. サロン運営の目的は何ですか？

地域交流の場つくり(高齢者、独り暮らし、ヤングママ達スタッフ自身も交流できる)

2. サロンの開催頻度と参加者、参加費用は？

開催頻度:2回/月 参加者:35人程度 参加費:ランチ代380円/回

3. 参加者はどのような方(年齢・性別・職業等)ですか？

高齢者が6割(ほとんどが独り暮らし)

最近引っ越ししてきた人や子育て中のママもいて、だれでも参加できるようにしている

4. サロンの担い手は何人でどのような方(年齢・性別・職業等)ですか？

約10人 女性が7割でほとんどが60代以上

半分が教会関係者だが、残りは地域の住民ボランティア

5. フードバンクから主にどのような食品を受領し、どのように活用されていますか？

ソース・ドレッシング類、缶詰類等手を加えて使えるものは調理して使用

お菓子、ベビーフード、独り暮らしで使えるもの等はお土産に

6. フードバンク活用の効果を教えてください。

(1) サロン開催頻度と参加者の増減は？

特に変化はない

(2) サービス内容の変化は？

お土産付きになった(無料でもらえるのでお客様が助かっている)

(3) 担い手(ボランティア等)の活動の変化は？

フードバンクの食品を基にメニューを考えるようになった

(4) サロン運営費用面での変化は？

安価なランチ提供が継続できており、助かっている

(5) その他変化があれば教えてください。

特になし

7. 調査者所感(調査者が記入)

月2回だが地域に密着した活動となっており、来場者・スタッフともいきいきしていた。

FB食品の無料配布とともに提供者のある野菜・乾物・豆腐などの安価販売も実施しており、来場者にとって有用な活動であると思う。

また、子育てママの参加が高齢者を喜ばせている面があるようだ。

効果測定調査票

別紙6-4



■代表者



■活動場所の全景



■活動状況

団体名:たまり場城山

代表者:森川 洋一

所在地:愛知県小牧市城山5-113

(城山会館)

調査日:平成27年2月16日

調査者:2HN 山内

1. サロン運営の目的は何ですか？

独居老人、特に定年退職した男性の孤立を無くすために桃花台ニュータウン内にある集会場にて筆ペン講座、カラオケ、手芸、麻雀などを行っている。

2. サロンの開催頻度と参加者、参加費用は？

開催頻度:2回/月 参加者:30人程度 参加費:100円/回

3. 参加者はどのような方(年齢・性別・職業等)ですか？

桃花台団地やその周辺に住む、一人暮らしの高齢者や子どもと同居していない高齢の夫婦等

4. サロンの担い手は何人でどのような方(年齢・性別・職業等)ですか？

定年退職した60歳代の男性2名と女性3名

5. フードバンクから主にどのような食品を受領し、どのように活用されていますか？

コーヒー・お茶、ジュース、お菓子などを受け取り、休憩時間や昼食後に使用

6. フードバンク活用の効果を教えてください。

(1) サロン開催頻度と参加者の増減は？

お茶やお菓子により会話が弾むようになり参加者が増えた。

食品が人ととの潤滑油の役割をしている。

(2) サービス内容の変化は？

100円の参加費で100円以上の価値があると参加者に感じもらっている。

(3) 担い手(ボランティア等)の活動の変化は？

コップを準備する、ジュースをつぐなど「おもてなし」を行うためにスタッフに役割が発生してやりがいにつながっている。

(4) サロン運営費用面での変化は？

活動を始めたばかりで備品購入にお金がかかっていたが、食品を受け取ることで経費が浮いた。

(5) その他変化があれば教えてください。

話がはずみ賑やかになり雰囲気が良くなった。

おもてなしを実践するための道具(お茶や食べ物)があることで、スタッフに自信が生まれた。

7. 調査者所感(調査者が記入)

他団体の運営スタッフが一般的の参加者として来ていることから、誰でも参加できる開かれ雰囲気が感じられた。また、そのためこれまで見たどのサロンよりも賑やかでした。

効果測定調査票

別紙6-5



■代表者



■活動場所の全景



■活動状況

団体名:南柏谷ハウス

代表者:石井健太

所在地:知多市南柏谷1丁目20-303

調査日:平成27年2月1日

調査者:地域福祉サポートちた 市野

1. サロン運営の目的は何ですか?

多世代交流、若者の居場所

2. サロンの開催頻度と参加者、参加費用は?

開催頻度:30回/月 参加者:30人程度 参加費:0円/回

3. 参加者はどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?

赤ちゃんから高齢者まで 特に60~70が中心に参加している

男女比はほぼ同数くらい

4. サロンの担い手は何人でどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?

ボランティア登録48人、うち30人がサロン(運営)ボランティア(概ね60~70代の女性)

5. フードバンクから主にどのような食品を受領し、どのように活用されていますか?

受領頻度は月2回、活用方法はイベント(ウォーキング)参加者への参加賞、ボランティア謝礼、サロンでの飲食

6. フードバンク活用の効果を教えてください。

- (1) サロン開催頻度と参加者の増減は?

今年度より始めたウォーキング事業で、イベント終了後フードバンクで受領した食品を囲んで話題になっているため、毎週土曜の参加者が増えた。

- (2) サービス内容の変化は?

飲食やイベントなどへの参加にお得感があり、参加者が増えている。

- (3) 担い手(ボランティア等)の活動の変化は?

全くの無償ボランティアで運営しているため、フードバンク食材があみやげとして喜ばれている。

- (4) サロン運営費用面での変化は?

ドリンクに付けるサービス分を買わなくてもよくなった。

- (5) その他変化があれば教えてください。

受領した食品を使って、料理方法などで話題が広がっている。

7. 調査者所感(調査者が記入)

受領した調味料の利用方法や、食品受領の車の手配やその道中など話の花が咲き、サロン活動者だけでなく、来客者やサロンに関わる男性ボランティアとの交流の輪が広がり、活動の良い刺激になっている。

効果測定調査票

別紙6-6



■代表者



■活動場所の全景



■活動状況

団体名:明倫学区福祉推進協議会

代表者:田口 貴美子

所在地:名古屋市東区出来町2-8-15

明倫 コミセン内

調査日:平成27年2月10日

調査者:2HN 伊藤

1. サロン運営の目的は何ですか?

ひとり暮らしの高齢者の方々が一人でも多くコミセンにて開催のサロン等に参加していたたまご孤立しないようにお声かけをする

2. サロンの開催頻度と参加者、参加費用は?

開催頻度:30以上回/月 参加者:20~90人程度 参加費:0~200円/回

3. 参加者はどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?

全般 65歳以上の一人暮らし、囲碁サロン、さくら・もみじクラブ、ふれあい昼食会 その他Xmasなどイベント、餅つきは高齢者とその家族、地域の住民参加

4. サロンの担い手は何人でどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?

60歳以上のリタイヤした方々、民生委員、ボランティア(福祉推進協議会のボランティア) 実行委員ほぼ全員が女性だが各自治会長など男性は当日出席してくれる

5. フードバンクから主にどのような食品を受領し、どのように活用されていますか?

お菓子とジュース インスタントのお粥など

イベントのピンゴゲームの景品に使用、非常に盛り上がった。

6. フードバンク活用の効果を教えてください。

- (1) サロン開催頻度と参加者の増減は?

参加は確実に増えている。高齢者が増えているのもあるが、小さなお土産(2HN提供 お菓子とサロンで購入品)で集まっている。

みんなの広場(月に一度開催)はいつも数名参加が今回15名集まった。

- (2) サービス内容の変化は?

それぞれの会で集まった人が自由に使えるように喫茶コーナーを作った。 いろんなイベントを考えるようになった。

- (3) 担い手(ボランティア等)の活動の変化は?

サロンもボランティアも盛り上がる。

- (4) サロン運営費用面での変化は?

いつもギリギリの予算で活動しているので非常に助かる。

予算が無いときは貰しか買えなかった。

- (5) その他変化があれば教えてください。

毎回、同様な菓子やジュースを参加者に提供できればいいが、前回あったのに今回はないと言われた。高齢者ゆえ仕方がないが、サロン開催側も気をつけたい。

7. 調査者所感(調査者が記入)

月曜以外土日もオープンで高齢者はいつも立ち寄れる居場所になっている。

運営している民生委員とボランティアさんの行動力に感動します。

事業報告（3） 食品配布活動

効果測定調査票

別紙6-7



■代表者



■活動場所の全景



■活動状況

団体名:グリーンビューいきいき
お元気サロン
代表者:大塚 博子
所在地:名古屋市守山区泉が丘1001
調査日:平成27年2月16日
調査者:2HN 水野

1. サロン運営の目的は何ですか？

在宅の高齢者に集ってもらい、知識や情報の取得を通して交流を図る

2. サロンの開催頻度と参加者、参加費用は？

開催頻度:2回/月 参加者:15~25人程度 参加費:100円/回

3. 参加者はどのような方(年齢・性別・職業等)ですか？

志段味西地区に住む65歳から80代までの男女

4. サロンの担い手は何人でどのような方(年齢・性別・職業等)ですか？

専従は代表者のみ。参加者の中で3~4名が準備等手伝っている
会場設営等は参加者が行う

5. フードバンクから主にどのような食品を受領し、どのように活用されていますか？

ジュース・お茶等の飲み物、菓子類、マジックライス、缶詰、冷凍食品等参加者に軽食や
おやつとして用意し、飲食しながら交流を図っている

6. フードバンク活用の効果を教えてください。

(1) サロン開催頻度と参加者の増減は？

回数・参加者数で特に変化はない

(2) サービス内容の変化は？

軽食を提供できるようになり、好評を得ている

(3) 担い手(ボランティア等)の活動の変化は？

軽食づくりで手間が増えたが、手伝ってくれる参加者が増えた

(4) サロン運営費用面での変化は？

食品提供を受けることで、参加費を講師謝礼に回す予定であったが、会場使用料が
値上がりしたため、そちらに回している

(5) その他変化があれば教えてください。

軽食を提供することで、食材選びや調理法で話が弾み、交流が深まってきている

7. 調査者所感(調査者が記入)

ボランティアも入っていない参加者ののみの取り組みではあるが、皆さんのが主体的に参加
している様子がうかがわれ、高齢者を元気づけるという点ではうまくいっている会だと
思いました

効果測定調査票

別紙6-8



■代表者



■活動場所の全景



■活動状況

団体名:春明さわやか会
(春明いこいの館運営)
代表者:渋谷 春・吉田尚明
所在地:一宮市春明河戸59
調査日:平成27年2月12日
調査者:のわみ相談所 三輪

1. サロン運営の目的は何ですか？

子どもからお年寄りまで地域の皆さんのが集まって、高齢者の孤立化の防止、地域の交流と
活性化としてパソコン教室、カラオケ、マージャン、囲碁、将棋、陶芸、大正琴等をして楽し
む。地域の人が野菜を持ち込んで、販売もしている。

2. サロンの開催頻度と参加者、参加費用は？

開催頻度:毎日、朝8時から夜10時まで 参加者:50人程度 参加費:維持費として 200円/回

3. 参加者はどのような方(年齢・性別・職業等)ですか？

年金生活者 9割 若妻会 1割 男女比7:3 70歳前後の人が多い

4. サロンの担い手は何人でどのような方(年齢・性別・職業等)ですか？

代表 2人、協力者17人、全員70歳前後 年金生活者 男女比 9:1

5. フードバンクから主にどのような食品を受領し、どのように活用されていますか？

飲料水、ラーメン、冷凍食品 その他食品全般

その場で食べたり飲んだり、持ち帰ってもらったりしている。

6. フードバンク活用の効果を教えてください。

(1) サロン開催頻度と参加者の増減は？

サロンに来ると食べたり飲んだりできるので、週1回位来ていた人達が毎日来るよ
うになった。

(2) サービス内容の変化は？

食品を無料で提供できるようになったおかげで、交流の場が広がった。

特に女性の参加が増えた。

(3) 担い手(ボランティア等)の活動の変化は？

ボランティアの人たちにお礼にと食料品が渡せるので喜んでボランティアに参加しても
らえるようになった。

(4) サロン運営費用面での変化は？

仕入れをしなくて済むので、買い物の量が減り、赤字が減った。

(5) その他変化があれば教えてください。

参加者が増えて、維持費が増えた為、赤字が減った。

7. 調査者所感(調査者が記入)

当日は若妻会の人達が15人位で陶芸教室をしていました。月間延1200人の利用者が
いて、とても賑やかで楽しい雰囲気でした。ここは一宮市のはずれの農村地帯で、低年金
の人たちが多い地域と思われますが、老若男女が集う場所としてここを提供された代表
者2人は本当に社会貢献されていると思います。サロン内も50人がゆったりとは入れてと
ても広く、1日200円で1日中遊べて地域の活性化につながる最適な場所と思いました。

効果測定調査票

別紙6-9



■代表者



■活動場所の全景



■活動状況

団体名:鶴飼ファーム

代表者:鶴飼一雄

所在地:一宮市定水寺字北畠6番地

調査日:平成27年2月16日

調査者:のわみ相談所 三輪

1. サロン運営の目的は何ですか?

高齢者の孤立化を防止する為に、地域の住民との交流。

2. サロンの開催頻度と参加者、参加費用は?

開催頻度:3~4回/月 参加者:40人程度 参加費:なし

3. 参加者はどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?

地域住民 年金生活者、60代~70代が多い。男女比 2:6

4. サロンの担い手は何人でどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?

8人、60代、主婦、年金生活者。

5. フードバンクから主にどのような食品を受領し、どのように活用されていますか?

飲料水、冷凍食品、飴、お菓子、調味料等を頂き、そのまま配布したり、みんなでお料理をして食事会をする。

6. フードバンク活用の効果を教えてください。

(1) サロン開催頻度と参加者の増減は?

参加者が増加し、出席者が増えた。

(2) サービス内容の変化は?

今まで人との交流が主だったが、フードバンクの食品を渡せるようになり活気が溢れるようになった。

(3) 担い手(ボランティア等)の活動の変化は?

フードバンクの物資を渡す仕事が増えた為、担い手が増加した。

(4) サロン運営費用面での変化は?

飲物や食料を買わなくて良くなり、費用の節約になり、とても助かっている。

(5) その他変化があれば教えてください。

人との交流の中にフードバンクの食品が介在することにより、和気あいあいと話ができるようになった。

7. 調査者所感(調査者が記入)

フードバンクの食品が人と人とのつながりをより強固にすると思います。

サロン運営にとってフードバンクの食材は欠かせないと思いました。

効果測定調査票

別紙6-10



■代表者



■活動場所の全景



■活動状況

団体名:中畠遊楽館

代表者:斎藤 栄

所在地:一宮市中町2-2-3

調査日:平成27年2月19日

調査者:のわみ相談所 三輪

1. サロン運営の目的は何ですか?

地域に一人暮らしの老人が多いので、その人たちが集まって楽しくやれるたまり場を作つて、いつまでも健康で長生きできるように、みんなでワイワイガヤガヤと交流するため。

2. サロンの開催頻度と参加者、参加費用は?

開催頻度:16回/月 参加者:180~200人程度/月

参加費:0円/回(市から出る毎月3万円の補助金で賄っている)

3. 参加者はどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?

年齢制限はないが、年金生活者が10割 男女比6:4 70歳前後の人が多い

4. サロンの担い手は何人でどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?

代表 1人、協力者10人、全員70歳前後 年金生活者 男女比 6:4

ローテーションで毎回2人ずつ世話をします。

5. フードバンクから主にどのような食品を受領し、どのように活用されていますか?

ジュース、お菓子類、麺類、つくだ煮等、何をもらってもありがたい。うれしい。

来た人にはジュースやお菓子を出し、帰りに食品を持ち帰つてもらうようにしている。

あまり来ない人には訪問して食品を渡す。その場では料理はしない。

6. フードバンク活用の効果を教えてください。

(1) サロン開催頻度と参加者の増減は?

楽しみが増えた。来てくれる人が増えた。

(2) サービス内容の変化は?

独り暮らしにはご飯のおかずになるものをもらうとすごくうれしいと言われる。

今まで食べ物まで気が回らなかつたけど食べ物が提供できる。

ようになってやりがいを感じる。

(3) 担い手(ボランティア等)の活動の変化は?

気軽に飲物が出せるので、支出を気にしなくていいので助かる。

参加すると食べ物がもらえるので張り合いがある。

(4) サロン運営費用面での変化は?

わざわざ買い物する必要がなくなったのでたすかる。

他の所にお金を回せるようになった。

(5) その他変化があれば教えてください。

1割位利用者が増えた。

7. 調査者所感(調査者が記入)

当日は健康講座「生活不活発病」と介護施設の種類、毎日の生活習慣について、また健

康体操など、脱線しながらとても楽しく為になる講座でした。他にも写経や折り紙、絵

手紙、カラオケ大会、誕生会など行っており、皆さん第2の人生を楽しんでいました。

事業報告（3） 食品配布活動

効果測定調査票

別紙6-11



■代表者



■活動状況

団体名:かすみ草
代表者:松浦 英子
所在地:豊田市井上町4丁目152-3
調査日:平成27年2月9日
調査者:トルシーダ 佐久間

1. サロン運営の目的は何ですか?
居場所(高齢者、障害者等どなたでも)作り
2. サロンの開催頻度と参加者、参加費用は?
開催頻度:15回/月 参加者:10人程度 参加費:100円/回
3. 参加者はどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?
高齢者、障害者
4. サロンの担い手は何人でどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?
5人 全員70代 女性
但し、利用者も手伝ってくれる。
5. フードバンクから主にどのような食品を受領し、どのように活用されていますか?
飲料水、菓子類を受領 そのまま使用。
6. フードバンク活用の効果を教えてください。
 - (1) サロン開催頻度と参加者の増減は?
茶菓子の提供により参加者が増加した。
 - (2) サービス内容の変化は?
提供品の品数が増えよくなった。
 - (3) 担い手(ボランティア等)の活動の変化は?
よくなつた。
 - (4) サロン運営費用面での変化は?
食材費が節約でき少し楽になった。
 - (5) その他変化があれば教えてください。
みなさまのおかげで大変喜ばれております。
7. 調査者所感(調査者が記入)
近郊の利用者と障害者のつどいの場所となっている。
高齢者・障害者のたまり場として他所と比較してよい環境であると思われた。

効果測定調査票

別紙6-12



■代表者



■活動状況

団体名:NPO法人
ほっとほーむよといでん
代表者:日比 初代
所在地:豊田市西山町2-38-1
調査日:平成27年2月9日
調査者:トルシーダ 佐久間

1. サロン運営の目的は何ですか?
高齢者の集まる場、会話の場所提供
2. サロンの開催頻度と参加者、参加費用は?
開催頻度:25回/月 参加者:12人程度 参加費:300円/回
3. 参加者はどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?
高齢者
4. サロンの担い手は何人でどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?
11人 主に女性 年齢30代～60代
5. フードバンクから主にどのような食品を受領し、どのように活用されていますか?
飲料水 調味料 冷凍食品等を受領し、調理して提供している。
6. フードバンク活用の効果を教えてください。
 - (1) サロン開催頻度と参加者の増減は?
増減はなく継続できています。
 - (2) サービス内容の変化は?
皆様に喜んでいただいています。
 - (3) 担い手(ボランティア等)の活動の変化は?
ボランティアの方、多くの方に支えられています。
 - (4) サロン運営費用面での変化は?
食材等助かっています。
 - (5) その他変化があれば教えてください。
特になし。
7. 調査者所感(調査者が記入)
代表者の人柄がよく、多くのボランティアスタッフが集まり活動できている。
提供食品が有効に使われていると思われた。

効果測定調査票

別紙6-13



■代表者



■活動場所の全景



■活動状況

団体名:NPO法人はっぴいわん大府

代表者:久保田久代

所在地:大府市共西町6-168

(サロンは全4ヶ所)

※今回訪問したのは常滑市
大野町のはっぴいひろば

調査日:平成27年2月12日

調査者:FBP@ちた 池原

1. サロン運営の目的は何ですか?

地域の人の生き甲斐づくりのお手伝いをし「いつ来てもいい、いつ帰ってもいいみんなの家」でありたい。顔を知り合い、助け合いの仲間を作り、赤ちゃんからお年寄りまでこの地域で安心して暮らせる他人家族を作り、お互い助け合って生きていきたい。

2. サロンの開催頻度と参加者、参加費用は?

開催頻度:月～金 参加者:平均20人程度 参加費:サロン飲食代 年会費制度あり

3. 参加者はどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?

地域の高齢者 女性が多い

4. サロンの担い手は何人でどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?

60～70代の女性スタッフ15名が日替わりで運営している。常滑市外から来ているスタッフもあり。

5. フードバンクから主にどのような食品を受領し、どのように活用されていますか?

フードバンクでいただけるもの全般を有効に活用している。

ランチの食材やコーヒーのお茶請けとしても利用している。

お菓子類以外は、いろいろと加工して出している。

6. フードバンク活用の効果を教えてください。

(1) サロン開催頻度と参加者の増減は?

開催頻度は変わらずだが、こんなに美味しいものが食べられるならとモーニングに1日2回みえた方がいた。モーニングのリピータが3～5名ほど増えた。

(2) サービス内容の変化は?

ランチもコーヒーのお茶請けも確実にグレードアップした。

スープとかもいただけるので、ランチメニューに洋食が増えた。

(3) 担い手(ボランティア等)の活動の変化は?

いただいたものを無駄にすることのないように工夫をすることでレパートリーが増えた。
他のサロンとの情報交換も楽しい。

(4) サロン運営費用面での変化は?

お客様は年金生活の人ばかりなので、値段をあげられないのが現状。

バターなどが高騰しているなかお菓子代などを浮かすことができるので大変助かっている。

(5) その他変化があれば教えてください。

特になし

7. 調査者所感(調査者が記入)

冷凍コロッケをカツ煮風にしたり冬場のペットボトルコーヒーはコーヒーゼリーにしたりと、食材を無駄にしない工夫が素晴らしい。夏休み等には学生ボランティアの受け入れもされており、フードバンクの紹介もしてくださっていること。今まで使ったことのない食材もあるなかで、かなり有効活用されていると感じた。

効果測定調査票

別紙6-14



■代表者



■活動場所の全景



■活動状況

団体名:NPO法人楽人生(ライフ)

代表者:安藤雅明

所在地:常滑市西之口8丁目
64番地の1調査日:平成27年2月9日
調査者:FBP@ちた 池原

1. サロン運営の目的は何ですか?

地域の人の交流の場作り

特に高齢者の方に外へ出てもう機会を作り、認知症予防などに取り組んでもらいたい。

2. サロンの開催頻度と参加者、参加費用は?

開催頻度:サロン(笑話座)月～土・体操毎週木曜日・認活講座月1回

参加者:平均8人程度 参加費:サロンでの飲食代 会員制度あり

3. 参加者はどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?

地元の高齢者 女性が多い

サロンには休日に近所の家族連れがみえることもあります

4. サロンの担い手は何人でどのような方(年齢・性別・職業等)ですか?

サロンは理事長の安藤さん(50代)とシェフの2名で運営

体操は50代の女性4名が順番に担当(普段はそれぞれパートをしている)

5. フードバンクから主にどのような食品を受領し、どのように活用されていますか?

食パン・ドリンク・クッキー・フルーツ缶等

食パンやフルーツはモーニングに利用。クッキーはドリンクのお茶請けなどドリンクは体操や認活講座または講演の際に利用

6. フードバンク活用の効果を教えてください。

(1) サロン開催頻度と参加者の増減は?

オープンして1年の新しいサロンで、オープン当初よりフードバンクを利用しているため特にこれといった変化はなし。

(2) サービス内容の変化は?

フルーツ缶などをを利用してモーニングに彩ができた。

(3) 担い手(ボランティア等)の活動の変化は?

活動の変化ではないが、サロン外での活動時にスティックタイプのドリンクだと持ち運びも便利でお土産にもなるので毎回利用するようになり助かっている。

(4) サロン運営費用面での変化は?

厳しい運営費用で活動しているので、必ず必要となるクッキーやパンなどを提供していただけるのは大変助かる。

(5) その他変化があれば教えてください。

特になし

7. 調査者所感(調査者が記入)

地域性もありなかなか高齢者が家から出て来るのが現状のこと。

フードバンクで利用している食品の種類は少ないが、いろいろな活動をされている方なのでこれからもさまざまなおでこでフードバンクを有効活用できるのではないかと感じた。

事業報告（3） 食品配布活動

効果測定調査票

別紙6-15



■代表者



■活動状況

団体名:なかよしくらぶ
代表者:木村 博子
所在地:名古屋市北区柳原
1-24-12
調査日:平成27年2月25日
調査者:LSあいち 中川

1. サロン運営の目的は何ですか？

基本は高齢者の楽しみ・いきがいを創る場所。そこから地域の活性・地域の発展も考える。

2. サロンの開催頻度と参加者、参加費用は？

開催頻度:1回/週 参加者:15人程度 参加費:100円/回

3. 参加者はどのような方(年齢・性別・職業等)ですか？

お一人暮らし・将来に不安のある方から、生きがいづくりの方 60歳～90歳

4. サロンの担い手は何人でどのような方(年齢・性別・職業等)ですか？

5名 全員女性(70代)

5. フードバンクから主にどのような食品を受領し、どのように活用されていますか？

お菓子が主ですが、時々惣菜も頂きます。(調理して使用)

6. フードバンク活用の効果を教えてください。

(1) サロン開催頻度と参加者の増減は？

頂いたものをそのまま調理して活用しています。

(2) サービス内容の変化は？

頂けるという事だけで社会の現状を知り地域の連携を感じています。

(3) 担い手(ボランティア等)の活動の変化は？

ボランティア意識の芽生えから、地域の在り方を考え始めた。

(4) サロン運営費用面での変化は？

サロンの今後の在り方に変化在り、高齢者の実態を話ができました。

(5) その他変化があれば教えてください。

集まる動機ができただけでなしに、支え合いの意識が出てきた。

7. 調査者所感(調査者が記入)

新しく3つのサロンができました。質内容はそれぞれですがやりがいがあり、主催者として生きがいを感じ始めています。来訪者が趣味・特技を生かすことで探していた生きることの楽しみを感じてきた気がします。

5. 成果と反省

成 果

活動期間中、新たに10か所の民間「高齢者サロン」が2HNのパートナー団体に登録され、直接配布することができた。

一方、従来のパートナー団体で、その近隣の「高齢者サロン」に再配布できる団体があり、ここを通じて32か所の「高齢者サロン」に配布することができた。

数多くの「高齢者サロン」への食品配布を実現するうえでは、地域ごとの配布拠点つくりが重要であり、その中核となりうる市区町村の社協との連携が必要と考え、その試行を始めたことができた。

これらの活動結果の効果を測定すべく、配布実績のある「高齢者サロン」への聞き込み調査を行ったが、ほぼ全ての「高齢者サロン」からフードバンクによる食品の提供が有効であるとの評価を得ることができた。

反 省

本活動はその端に着いたばかりで、愛知県内には千を超える「高齢者サロン」があり、その極一部に食品提供できたにすぎない。

多くの「高齢者サロン」にフードバンクの食品を提供していくには、地域ごとの拠点の整備が必要であり、既存のパートナー団体を通じて再配布するとともに地域の「高齢者サロン」を所管している社協との連携を模索することが必須であると考えられ、その足がかりができた段階に過ぎないといえる。

課 題

地域の「高齢者サロン」の拠点として必要な要件は、各サロンのニーズに基づく必要な食品の選定と食品の受領・保管、食品の配布と記録であるが、ニーズとその時フードバンクの所有する食品とのマッチングが課題であると思われる。

今後も、再配布団体や市区社協との試行を重ね、このマッチングを最適化できる仕組みの構築を進めていく必要があり、これにより更に多くの愛知県内の「高齢者サロン」への食品提供を進めて行きたい。

まとめ

今回の配布活動では、「高齢者サロン」を介しての生活困窮者支援には至らなかったが、高齢者の生活困窮者は数多く存在すると思われ、「高齢者サロン」もその探求のネットワークとなりうると考えられ、隠れた生活困窮者を発掘し支援していく上でも、「高齢者サロン」支援はセーフティネット構築の一助として必要と考える。

7

事業報告(4)食料支援とつなぎ支援

1. 活動内容

高齢者を中心に生活困窮状態で緊急に食料支援が必要な方へ以下の2通りの方法で食料支援を行った。また直接食料支援だけでは生活の安定が難しい場合、2HNと繋がりのある団体を紹介した。

- | | |
|---------|---|
| (1)直接引取 | 2HN事務所へ直接取りに来た人へ食品配布 |
| (2)送付 | 社協や行政機関、その他民間の相談窓口から食料支援の依頼があった場合に食品の詰合せ(以下、食品パック)を送付 |

送付手順

- ①各行政窓口に生活相談に来られる方の中で食料支援が必要と判断された場合、相談担当者は依頼書(参考資料)を記入し2HNにFAXで送付する。
- ②2HNは「依頼書」の内容にもとづき「食品パック」を作り宅配便で相談窓口もしくは対象者に送付する。

表7-1 依頼元団体一覧

- | | | | | |
|-----------------------------------|------|-----|----------|-----|
| ●市役所 | ●区役所 | ●社協 | ●高齢者福祉団体 | ●教会 |
| ●いきいき支援センターなど介護法にもとづく高齢者支援事業 | | | | |
| ●平成27年4月より施行の生活困窮者自立支援法にもとづくモデル事業 | | | | |



図7-1 高齢者に配慮した食品パック例

お米5Kg、うどん、山菜おこわ、減塩みそ、だしの素、薬味、ふりかけ、のり、佃煮、ドライ野菜各種、缶詰(マグロ、さばのみそ煮、焼き鳥、赤飯の素)、カレー粉、雑炊の素 卵料理補助品、レトルトカレー甘口 高齢者用レトルト4各種、水煮素材2種、フルーツ缶(もも、みかん、あんみつ)せんべい 緑茶葉 等
総重量約12Kg

2. 活動期間

平成26年4月～平成27年3月

3. 活動地域

愛知県内

4. 活動結果

以下の活動実績は、平成27年2月末までの実績を示す。

高齢者を含む全食料支援の件数を以下に示す。

表7-1 直接引取と送付の件数

()内は65歳以上の件数

	直接引取	送付	合計
日本人	84 (24)	148 (28)	232 (52)
外国人	124	65 (4)	189 (4)
合計	208	213	421 (56)

日本人・外国人の高齢の生活困窮者へ直接引取、送付にて食品を配布した56件の支援実績を表7-2に示す。

表7-2 日本人・外国人の高齢生活困窮者(65歳以上)への食料支援一覧

発送日	名前	性別	年齢	国	家族構成	形態	米	食品(kg)	支援理由	今後の対応	依頼元・つなぎ先
2014年4月1日		男	70	日本	夫婦	引取	0	3.0	年金では生活費が十分でない		セカンドハーベスト名古屋
2014年4月3日		男	70	日本	夫婦	引取	0	3.4	年金では生活費が十分でない		セカンドハーベスト名古屋
2014年6月28日		男	71	日本		送付	5	5.5			清須市地域包括支援C
2014年7月2日		男	89	日本		送付	0	9.8	借金返済で困窮	年金受給まで	中川区社会福祉協議会
2014年7月7日		男	71	日本		送付	0	9.5		7/28給料日まで	中川区社会福祉協議会
2014年7月14日		男	74	日本	単身	引取	0	12.0	年金を抵当に入れた為	年金支給日まで	北区社会福祉協議会
2014年7月22日		男	78	日本		送付	1	8.0	認知機能低下で生活困窮		北区東部いきいき支援C
2014年7月25日		男	74	日本	単身	引取	0	6.0	年金を抵当に入れた為	年金支給日まで	北区社会福祉協議会
2014年7月28日		男	65	日本	夫婦	引取	5	3.8	生活費が足りなくなった	年金支給日まで	北区社会福祉協議会
2014年7月29日		女	79	日本		送付	0	7.9		年金支給日まで	高浜市社会福祉協議会
2014年7月29日		男	65	日本	夫婦	引取	0	3.6	生活費がなく食品買えず	年金支給日まで	北区社会福祉協議会
2014年7月30日		男	65	日本	夫婦	引取	5	6.0	生活費がなくなった	年金支給日まで	北区社会福祉協議会
2014年8月18日		男	74	日本	単身	引取	0	7.5	年金抵当で生活費足りず	年金支給日まで	北区社会福祉協議会
2014年8月22日		男	72	日本		送付	0	6.7	体調崩し仕事不可、無年金	家屋を売却予定	中川区社会福祉協議会
2014年8月28日		男	74	日本	単身	引取	0	5.5	年金抵当で生活費足りず	年金支給日まで	北区社会福祉協議会
2014年8月29日		男	73	日本		送付	5	7.6	生活費盗難にて困窮	年金まで	豊橋市社会福祉協議会
2014年9月3日		女	78	日本		送付	5	5.9	圧迫骨折の医療費で困窮	貸付まで	瀬戸市社会福祉協議会
2014年9月9日		男	84	日本		送付	0	7.9	生活費不足	10/15年金まで	中村区社会福祉協議会
2014年9月9日		男	72	日本		送付	0	6.7	家屋清算に向け動き出す	家屋を売却予定	中川区社会福祉協議会
2014年9月17日		男	74	日本	単身	引取	0	6.2	認知症の可能性あり	年金支給日まで	北区社会福祉協議会
2014年9月18日		男	78	日本		送付	5	4.5	生活費がなく食品買えず		北区東部いきいき支援C
2014年9月26日		男	74	日本	単身	引取	0	3.8	認知症の可能性あり	年金支給日まで	北区社会福祉協議会
2014年10月1日		男	67	日本	ホームレス	代理引取	0	5.0	ホームレスで食費ない		尾張福祉相談C
2014年10月1日		男	84	日本		送付	0	7.0	次回年金まで生活費不足	10/15年金まで	中村区社会福祉協議会
2014年10月2日		男	74	日本	単身	引取	0	4.0	認知症の可能性あり	介護支援へ	北区東部いきいき支援C
2014年10月3日		男	70	日本		送付	5	5.0	転居費用で生活困窮	10/15年金まで	名古屋市仕事・暮らし自立SC
2014年10月15日		男	74	日本	単身	引取	0	4.0	年金抵当、認知症の可能性あり	介護事業所へ	北区東部いきいき支援C
2014年10月23日		女	73	日本		送付	5	6.5	葬祭及び転居費用で困窮		熱田区社会福祉協議会
2014年10月31日		男	74	日本	単身	引取	2.8	7.2	介護拒否	友人に説得願う	北区東部いきいき支援C
2014年11月14日		男	73	日本	単身	代理引取	0	8.0	年金が底をついた	年金支給日まで	北区東部いきいき支援C
2014年11月14日		男	67	日本	単身	送付	5	8.3	病気で仕事できず年金なし	保護費申請検討	豊橋市社会福祉協議会
2014年11月17日		女	75	外国		送付	5	8.4	生活苦	つなぎ先検討	セカンドハーベスト名古屋
2014年11月18日		男	80	日本		送付	0	9.6	年金のみの収入で家賃滞納	12/15の年金まで	名古屋市仕事・暮らし自立SC
2014年11月27日		女	71	日本		送付	5	7.1	年金までお金がついた	12/15の年金まで	中村区社会福祉協議会
2014年12月3日		男	67	日本	単身	代理引取	5	7.2	年金が底をつき3日間お茶のみ	12/15の年金まで	●●いきいき支援C
2014年12月3日		女	73	日本		送付	5	8.2	葬祭及び転居費用で困窮	介護支援に繋ぐ	●●区社会福祉協議会
2014年12月8日		男	74	日本	単身	引取	5	6.5	月の借金返済額を交渉中	自立に向かう	北区東部いきいき支援C
2014年12月8日		男	75	日本	単身	送付	0	10.6	低年金の為、支給日前に困窮	12/15の年金まで	南区社会福祉協議会
2014年12月25日		男	74	日本	単身	引取	0	4.0	年金抵当に関する裁判	自立にむけて動く	北区福祉課
2014年12月26日		女	75	外国		送付	5	6.0	生活苦	教会	
2014年12月26日		女	73	日本		送付	5	8.0	複雑な家庭環境で困窮	生保/施設検討中	●●居宅介護支援事業所
2015年1月6日		男	65	外国	単身	送付	5	8.0	高齢で怪我の為働けず	アバン杰リコ教会	アバン杰リコ教会
2015年1月7日		男	77	日本	2人家族	代理引取	5	8.0	貯えがなくなり食べるものが無い		名古屋市仕事・暮らし自立SC
2015年1月14日		女	75	日本		送付	5	7.1	低年金、家賃、電気など滞納	保護費不可	名古屋市仕事・暮らし自立SC
2015年1月19日		男	76	日本	単身	代理引取	0	8.6	所持金つき、食料米のみ	2/13の年金まで	北区東部いきいき支援C
2015年1月21日		男	79	日本		送付	5	5.5	年金まで困窮	2/13の年金まで	名古屋市仕事・暮らし自立SC
2015年1月22日		男	84	日本	夫婦	送付	5	6.9	年金まで困窮	2/13の年金まで	名古屋市仕事・暮らし自立SC
2015年1月22日		男	74	日本	単身	引取	4.5	5.0	2月の年金まで生活費足りず	2月の年金まで	北区福祉課
2015年1月23日		女	89	日本		送付	5	6.3	認知症の疑いあり	4月の恩給まで	名東区社会福祉協議会
2015年1月28日		男	65	日本	単身	引取	0	3.6	認知症の可能性、妻家出で困窮	年金支給日まで	●●社会福祉協議会
2015年2月2日		男	78	日本	2人家族	送付	5	5.1	生活費なく、家賃、光熱費滞納		名古屋市仕事・暮らし自立SC
2015年2月2日		男	83	日本	夫婦	送付	5	6.9	年金まで困窮	2/13の年金まで	名古屋市仕事・暮らし自立SC
2015年2月3日		男	74	日本	単身	引取	0	6.5	介護サービスが必要な状態	2月の年金まで	北区福祉課
2015年2月5日		男	70	日本		送付	5	4.6	体調不良で失職し困窮	会社寮を退出予定	●●県PSC
2015年2月23日		女	75	外国		送付	5	5.7	生活苦	支援団体を探す	セカンドハーベスト名古屋
2015年2月26日		男	70	日本		送付	5	4.6	年金3万 稅費2万 食費ない		●●県PSC

5. 考 察

緊急食料支援はフードバンクの基本理念に基づく活動として平成25年より力を入れてきたが、今回、行政と協働で行う高齢者への支援が多くなり、加齢と生活困窮の関係性が見えてきたと思われる。

表7-2で示すように65歳以上の高齢者は労働により生活費を得ることが難しい為、少ない年金で生活を維持する能力が要求される。しかし現実は加齢による身体機能の低下や認知機能の低下で生活能力は下降する一方である。例えば、以前は安価な食品を購入して自宅で調理し生活費をやり繰り出来ていたが、生活能力の低下により近隣のコンビニ弁当が多くなり食費が足りなくなる。また生活のちょっとした要り様(医療費や通院タクシー代など)から家賃や光熱費を滞納し、自立した生活に戻ることが困難になる。

上記は表7-2の「次の年金まで」の支援要請が多い理由の一つと考えられる。また統計上、高齢者は圧倒的に女性が多いにもかかわらず、女性1に対して男性は3倍の支援数となつた。これは男女の生活能力の差異と考えられる。

6. 成果と今後の課題

成果としては行政機関と連携できたことが一番の成果である。高齢の生活困窮者を把握している行政機関と食品を対象者に直接支援できる2HNの連携により、弾力のあるセーフティネットとなり対象者が自立に向けて跳ね上がるバネとなった。表7-2にあるように次の年金、次の介護サービスにつながり、自立した生活に向かう一翼を担うことができた。この仕組みは当然のことながら高齢者だけでなく一般の生活困窮者の支援にもつながった。

課題としては支援対象者は家族の支援を受けられない単身者や老々家族であるため、少ない年金で自立した生活を維持できるような支援が必要になってくる。また高齢者を65歳以上と限定せず、加齢による病気や体調不良にて仕事見つけることが難しい60歳前後も高齢者予備軍として含めると、平成27年4月から平成27年2月末までの11ヶ月の個人支援総延べ数421件中、年齢を確認されたものだけで88件になった。早い段階から調理など生活能力をどう向上させるかも課題の一つである。

2HNとしても単身男性用に簡単に調理できる調理補助品を「食品パック」に詰めるよう心掛けている。

8

参考資料

アンケート調査用紙

**高齢者サロンや訪問活動を行う団体代表者の皆様へ
アンケート調査ご協力のお願い**

お問い合わせは、セカンドハーベスト名古屋までお食事の提供を受ける際に、生活困窮者を支援している団体や各種福祉団体を通じて必要とする方へ届ける「フードバンク」活動を行っています。2014年度、新たな事業として「食つなぐ」高齢者コミュニティ支援事業を行っています。これはフードバンクからのお食事を高齢者サロン（ふれあい食堂会合場）や訪問活動を行っている団体へ提供することで、各団体の活動を活性化することを目的としています。つきましては、本事業を行なうにあたりフードバンクに対するニーズを調査したアンケートを実施致します。ご多用の折大変恐縮ですが、ご協力くださいよろしくお願い申し上げます。

敬具

1. 団体名（ ）
 2. 団体事務所住所もしくは代表者住所（ ）
 3. 代表者名【性別】（ ）
 4. 代表者連絡先（TEL）【性別】（ ）
 5. 代表者の方のお立場について、当てはまる番号に1つ○をつけてください。
 （ 1. 民生委員 2. 老人クラブ会員 3. 自治会・町内会会員 4. NPO 法人スタッフ 5. ボランティア ）
 6. サロン名（ ）
 7. サロン開催場所（例：〇〇市〇〇町〇〇）（ ）
 8. サロンの開催頻度について、当てはまる番号に1つ○をつけてください。
 （ 1. 月1回くらい 2. 月2回くらい 3. 週1回くらい 4. 2~3ヶ月に1回くらい 5. その他（ ） ）
 9. サロン参加者について、平均的な参加者数、担任人数（スタッフ数）をそれぞれ記入ください。
 参加者（ ）名 担当（ ）名
 10. 活動の運営費（収入）について、当てはまる番号に1つ○をつけてください。
 1. 運営費が余裕がある 2. ちょうど良い 3. なんとかやりきりできている 4. 運営費は足りていない
 5. その他（ ）
 11. 活動の収入について、当てはまる番号全てに○をつけてください。
 （ 1. 社会助成金 2. 参加者負担（会費） 3. 町内会（区）助成金 4. その他（ ） ）
 12. 参加費について、当てはまる番号に1つ○をつけてください。
 1. 定期的に集めている。 一人当たりの金額をご記入ください。
 → ①毎月に集めている（ 円 ） ②1か月毎に集めている（ 円 ）
 ③年会費として集めている（ 円 ）
 2. 集めていない

13. 活動の支出について、当てはまる番号全てに○をつけてください。
 1. お菓子 2. 食材費 3. 保険料 4. 会場費 5. 印刷費 6. 備品購入 7. 事務用品
 8. 講師 9. その他（ ）
 14. 今後活動をどのようにしていきたいと考えていますか。当てはまる番号に1つ○をつけてください。
 1. もっとたくさんの方に参加してほしい 2. このままの規模を維持したい 3. 規模を縮小したい
 15. 今一番困っていることはなですか？（自由記述）

16. フードバンクからの食品受取を希望しますか？
 1. はい 2. いいえ（理由）
 17. フードバンクからの食品を受け取りを希望する食品について当てはまる番号全てに○をつけてください。
 1. 主食（米・パン・麺類・パスタなど）
 2. 調味料（塩・砂糖・味噌・しょうゆ・ドレッシングなど）
 3. ふりかけ類（茶漬け・佃煮・のりなど）
 4. 調理補助料（カレー粉・マヨネーズなどの惣菜の素）
 5. 調理用の缶詰・レトルト（トマト缶・スープ缶・野菜の水煮など）
 6. 調理不要の缶詰・レトルト（さばの味噌煮・カレー・フルーツなど）
 7. お菓子類
 8. 喫好飲料（粉末コーヒー・お茶など）
 9. ベットボトル飲料・缶飲料
 10. その他（ ）
 18. フードバンクからの食品を受けとったらどのように使いたいですか？当てはまる番号全てに○をつけてください。
 1. 来てくれた人に調理してもらいたい。
 2. 来てくれた人にそのまま出してもらいたい。
 3. イベントの時だけ出したい。
 4. 来てくれた人にお土産として渡したい。
 5. サロンに来られない人もしくは、訪問先へ届けに行きたい。
 6. その他（ ）
 ご協力ありがとうございました。

お問い合わせ先
〒462-0845 愛知県名古屋市北区柳原3-4-2 小菅ビル1F
特定非営利活動法人セカンドハーベスト名古屋
052-913-6280/052-913-6281

食コミシンポジウムチラシ



シンポジウムアンケート

食コミシンポジウムに関するアンケート

本日は、食コミシンポジウムにご参加いただき、誠にありがとうございました。
このアンケートは、当団体の今後の活動の参考とさせていただくとともに、本事業の実施に必要な助成事業（独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業）の参考とすることを目的に行なうものです。

ご参加いただいた皆様からの忌憚のないご意見をいただきやすく、ご協力ををお願いいたします。

以下の設問で該当する欄を入れてください

1. 本日の食コミシンポジウムの内容全般について、ご満足いただけましたか。（4択）
 とても満足（→設問2へ） 満足（→設問2へ）
 やや不満足（→設問3へ） 不満足（→設問3へ）
 2. (1) つとも満足「満足」を選んだ方)どのような点が良かったですか。（複数回答可）
 役立つ情報が得られた 日頃の生活や活動に役立った スキルアップにつながった
 他の参加者との交流・情報交換が図られた 抱えていた問題・不安の解消につながった
 その他 ー良かった点を具体的に教えてくださいー

3. (1) つやや不満足「不満足」を選んだ方)どのような点が良くなかったですか。（複数回答可）
 役立つ情報が得られなかった 日頃の生活や活動の参考にならなかった
 スキルアップにつながらなかった 抱えていた問題・不安の解消につながらなかった
 その他 ー良くなかった点を具体的に教えてくださいー

特定非営利活動法人セカンドハーベスト名古屋
〒462-0845 愛知県名古屋市北区柳原3-4-2 小菅ビル1F
052-913-6280/052-913-6281

依頼書

以下に記入のうえ2HN(052-913-6281)へFAXしてください。

依頼書

依頼日	年	月	日		
フリガナ					
支援対象者の 名前、性別、年齢	男・女 (歳)				
連絡先(TEL)					
受け取る理由					
ライフラインの有無	電気	ガス	水道	炊飯器	電子レンジ
送付先	依頼元の団体事務所・支援対象者本人の自宅				
送付先住所	〒 -				
依頼元団体名と 担当者氏名					
連絡先(TEL)					
備考	※支援者補足情報 国籍 → 日本、その他（ ） 家族構成 → 単身、複数（ 人うち子ども 人） 依頼回数 → 1回目、2回目、3回目 日時指定 → 指定無し、指定有り（ ）				
NPO 法人 セカンドハーベスト名古屋 462-0845 名古屋市北区柳原3-4-2 小菅ビル1F TEL:052-913-6280/FAX:052-913-6281					

メディアでの紹介

23 くらし愛 2014年(平成26年)8月2日(土曜日)

暮らし見つめて

生 活 フードバンクで高齢者支援

七月二十八日午後、名古屋市瑞穂区の住宅街にある「瑞穂ディセンターエンガワ」に食品が運び込まれた。センターは週一回、宅老所を開く。

代表を務める吉川富士子さん(左)とボランティアの支援員、早川由美子さん(右)は「今回ばかりはいつもより多め」と笑顔を見せた。早く川さんが車でセカンドハーベスト名古屋の高齢者の事務所から運んだ。店で買えば数万円必要になりそうな量。吉川さんは野菜を漬物や夏野菜カレーの素材として活用している。

吉川さんは市民グループ「雁ぶら物語」の代表でもある。雁ぶら物語は瑞穂区の雁商店街で、地域の高齢者が集まる「雁ぶらサロン」を運営する。サロンが開かれるのは週一回。吉

高齢者らの食事の材料になる食品がたくさん届いてる吉川富士子さん(左)と瑞穂ディセンターエンガワの白井康彦(右)

名古屋のNPO サロンに食品提供

七月二十八日午後、名古屋市瑞穂区の住宅街にある「瑞穂ディセンターエンガワ」に食品が運び込まれた。センターは週一回、宅老所を開く。

代表を務める吉川富士子さん(左)とボランティアの支援員、早川由美子さん(右)は「今回ばかりはいつもより多め」と笑顔を見せた。早く川さんが車でセカンドハーベスト名古屋の高齢者の事務所から運んだ。店で買えば数万円必要になりそうな量。吉川さんは野菜を漬物や夏野菜カレーの素材として活用している。

吉川さんは市民グループ「雁ぶら物語」の代表でもある。雁ぶら物語は瑞穂区の雁商店街で、地域の高齢者が集まる「雁ぶらサロン」を運営する。サロンが開かれるのは週一回。吉

「賞味期限が近い」「規格外」といった理由で捨てられる食品を企業がかかる無料で引き取って生活が苦しい人に無料で提供する「フードバンク」事業。NPO法人セカンドハーベスト名古屋(名古屋市北区)は六月から、地域の高齢者らが触れ合う「高齢者サロン」への食品提供を本格的に始めた。フードバンクの運営団体が高齢者支援を本格化させるのは異例だ。

食品を企業がかかる無料で引き取って生活が苦しい人に無料で提供する「フードバンク」事業。NPO法人セカンドハーベスト名古屋(名古屋市北区)は六月から、地域の高齢者らが触れ合う「高齢者サロン」への食品提供を本格的に始めた。フードバンクの運営団体が高齢者支援を本格化させるのは異例だ。

「高齢者向け」を事業の第一柱に据えた。高齢者向けの食事の材料になる食品がたくさん届いてる吉川富士子さん(左)と瑞穂ディセンターエンガワの白井康彦(右)

「高齢者向け」を事業の第一柱に据えた。高齢者向けの食事の材料になる食品がたくさん届いてる吉川富士子さん(左)と瑞穂ディセンターエンガワの白井康彦(右)

方の一百七十四団体を通じて、五百二十三の食品を配布した。食品を提供してくれる企業・団体も七十一まで増えた。同年度には、高齢者サロン側から大歓迎された。本岡俊郎理事長(左)は、「一人暮らしの高齢者の孤立問題が大きくなつて高齢者サロンの重要性が増してるので、人員や予算の制約で思うように運営できない団体が多い。だから、実際に提供し始め、高齢者サロン側から大歓迎された。」と語った。本岡俊郎理事長(左)は、「一人暮らしの高齢者の孤立問題が大きくなつて高齢者サロンの重要性が増してるので、人員や予算の制約で思うように運営できない団体が多い。だから、実際に提供し始め、高齢者サロン側から大歓迎された。」と語った。

「高齢者向け」を事業の第一柱に据えた。高齢者向けの食事の材料になる食品がたくさん届いてる吉川富士子さん(左)と瑞穂ディセンターエンガワの白井康彦(右)

「高齢者向け」を事業の第一柱に据えた。高齢者向けの食事の材料になる食品がたくさん届いてる吉川富士子さん(左)と瑞穂ディセンターエンガワの白井康彦(右)

2014年8月2日中日新聞記事「フードバンクで高齢者支援」

2015年(平成27年)3月20日(土曜日)

岐阜県内社協 愛知のフードバンク 困窮者支援 全国初提携

岐阜県社会福祉協議会(社協)や同県内の市社協は四月から、生活困窮者に緊急食料支援の必要があると判断した場合は、フードバンク団体(NPO法人セカンドハーベスト名古屋)(名古屋市北区)から送られる食料を提供する。近く岐阜県社協と同法人が協定を結ぶ。都道府県内の社協がまとめてフードバンク団体と提携する。岐阜県内社協と同法人が協定を結ぶ。都道府県内の社協がまとめてフードバンク団体と提携する。

困窮者支援するのは、全国の多くの社協が自治体から委託されて困窮者の相談に応じたり、就労を手助けしたりする。緊急食料支援は同法人が定める支援メニューにはないが、当面の食料を買う資金も事欠く生活困窮者は少なくない。相談などの際、緊急食料支援が必要と判断することもあるため、岐阜県社協が独自に調達ルートを構築し、フードバンクにたどりついだ。

岐阜県内社協と同法人が協定を結ぶ。都道府県内の社協がまとめてフードバンク団体と提携する。

セカンドハーベスト名古屋は法人登記が二〇〇九年で、東海地方最大のフードバンク団体。昨年はホームレス支援団体や福祉団体などに約五百十㌧の食料を提供した。愛知県内の社協などに派遣され、年は日本でも広がっている。

秀男事務局長は「今後は困窮者支援が事業の柱の一つになる」と予測する。

フードバンクは賞味期限が近いなどの理由で、食料関係の企業が売れないとの判断した食品を無料で譲り受け、生活困窮者の支援を受け、生活困窮者の支

援法 生活困窮者の自立支援 法 生活保護の一歩手前の「第一」のセーフティネットづくりを目指す

岐阜県内社協と同法人が協定を結ぶ。都道府県内の社協がまとめてフードバンク団体と提携する。

困窮者支援するのは、全国の多くの社協が自治体から委託されて困窮者の相談に応じたり、就労を手助けしたりする。緊急食料支援は同法人が定める支援メニューにはないが、当面の食料を買う資金も事欠く生活困窮者は少なくない。相談などの際、緊急食料支援が必要と判断することもあるため、岐阜県社協が独自に調達ルートを構築し、フードバンクにたどりついだ。

岐阜県内社協と同法人が協定を結ぶ。都道府県内の社協がまとめてフードバンク団体と提携する。

セカンドハーベスト名古屋は法人登記が二〇〇九年で、東海地方最大のフードバンク団体。昨年はホームレス支援団体や福祉団体などに約五百十㌧の食料を提供した。愛知県内の社協などに派遣され、年は日本でも広がっている。

秀男事務局長は「今後は困窮者支援が事業の柱の一つになる」と予測する。

フードバンクは賞味期限が近いなどの理由で、食料関係の企業が売れないとの判断した食品を無料で譲り受け、生活困窮者の支

援法 生活困窮者の自立支援 法 生活保護の一歩手前の「第一」のセーフティネットづくりを目指す

岐阜県内社協と同法人が協定を結ぶ。都道府県内の社協がまとめてフードバンク団体と提携する。

困窮者支援するのは、全国の多くの社協が自治体から委託されて困窮者の相談に応じたり、就労を手助けしたりする。緊急食料支援は同法人が定める支援メニューにはないが、当面の食料を買う資金も事欠く生活困窮者は少なくない。相談などの際、緊急食料支援が必要と判断することもあるため、岐阜県社協が独自に調達ルートを構築し、フードバンクにたどりついだ。

岐阜県内社協と同法人が協定を結ぶ。都道府県内の社協がまとめてフードバンク団体と提携する。

セカンドハーベスト名古屋は法人登記が二〇〇九年で、東海地方最大のフードバンク団体。昨年はホームレス支援団体や福祉団体などに約五百十㌧の食料を提供した。愛知県内の社協などに派遣され、年は日本でも広がっている。

秀男事務局長は「今後は困窮者支援が事業の柱の一つになる」と予測する。

フードバンクは賞味期限が近いなどの理由で、食料関係の企業が売れないとの判断した食品を無料で譲り受け、生活困窮者の支

援法 生活困窮者の自立支援 法 生活保護の一歩手前の「第一」のセーフティネットづくりを目指す

岐阜県内社協と同法人が協定を結ぶ。都道府県内の社協がまとめてフードバンク団体と提携する。

困窮者支援するのは、全国の多くの社協が自治体から委託されて困窮者の相談に応じたり、就労を手助けしたりする。緊急食料支援は同法人が定める支援メニューにはないが、当面の食料を買う資金も事欠く生活困窮者は少なくない。相談などの際、緊急食料支援が必要と判断することもあるため、岐阜県社協が独自に調達ルートを構築し、フードバンクにたどりついだ。

岐阜県内社協と同法人が協定を結ぶ。都道府県内の社協がまとめてフードバンク団体と提携する。

セカンドハーベスト名古屋は法人登記が二〇〇九年で、東海地方最大のフードバンク団体。昨年はホームレス支援団体や福祉団体などに約五百十㌧の食料を提供した。愛知県内の社協などに派遣され、年は日本でも広がっている。

秀男事務局長は「今後は困窮者支援が事業の柱の一つになる」と予測する。

フードバンクは賞味期限が近いなどの理由で、食料関係の企業が売れないとの判断した食品を無料で譲り受け、生活困窮者の支

援法 生活困窮者の自立支援 法 生活保護の一歩手前の「第一」のセーフティネットづくりを目指す

岐阜県内社協と同法人が協定を結ぶ。都道府県内の社協がまとめてフードバンク団体と提携する。

困窮者支援するのは、全国の多くの社協が自治体から委託されて困窮者の相談に応じたり、就労を手助けしたりする。緊急食料支援は同法人が定める支援メニューにはないが、当面の食料を買う資金も事欠く生活困窮者は少なくない。相談などの際、緊急食料支援が必要と判断することもあるため、岐阜県社協が独自に調達ルートを構築し、フードバンクにたどりついだ。

岐阜県内社協と同法人が協定を結ぶ。都道府県内の社協がまとめてフードバンク団体と提携する。

セカンドハーベスト名古屋は法人登記が二〇〇九年で、東海地方最大のフードバンク団体。昨年はホームレス支援団体や福祉団体などに約五百十 taraf;の食料を提供した。愛知県内の社協などに派遣され、年は日本でも広がっている。

秀男事務局長は「今後は困窮者支援が事業の柱の一つになる」と予測する。

フードバンクは賞味期限が近いなどの理由で、食料関係の企業が売れないとの判断した食品を無料で譲り受け、生活困窮者の支

援法 生活困窮者の自立支援 法 生活保護の一歩手前の「第一」のセーフティネットづくりを目指す

岐阜県内社協と同法人が協定を結ぶ。都道府県内の社協がまとめてフードバンク団体と提携する。

困窮者支援のは

2015年3月20日
中日新聞一面
「困窮者支援 全国初提携」

おせち 施設で作って
NPO法人 廃棄予定食材贈る

2015年(平成27年)1月1日(木)

おせち 施設で作って
NPO法人 廃棄予定食材贈る

食品メーカーで余ったおせち料理を分配する人たち=北区のセカンドハーベスト名古屋で

名古屋(北区)は三千一日、県内の障害者施設など十一施設に、正月のおせち料理に使う食材を贈った。

名古屋の本岡俊郎理事長(左)は「たくさんの人におせちを堪能してもらえば」と話していた。(佐藤裕介)

廃棄予定の食品を企業から無料で譲つてもいい、生活困窮者らに配給しているNPO法人セカンドハーベスト

食材は、市内の食品メーカーで余るなどして廃棄予定だつたぐりきんとんや昆布など約四十種類、計一・五トン。北区柳原三の事務所では同日午前、メンバーやスタッフらに手渡していった。

セカンドハーベスト

2015年1月5日
中日新聞記事
「おせち 施設で作って」

2015年(平成27年)2月16日(月曜日)

草の根 最前线

NPO法人セカンドハーベスト名古屋(北区)

「大きさがふぞろい」「発色が悪い」などの理由で廃棄される予定の食品を、食品関連企業から無料で譲つてもいい、生活困窮者らに配給する「フードバンク」と呼ばれる活動に取り組んでいる。

「捨てられてしまう食品を譲つてもいい、必要としている人に送り届けるのが私たちの仕事」ともやりがいがありますよ」と理事長の本岡俊郎さんは話す。

京都大農学部卒業

「フードバンク」で支援

【メモ】メンバーは約50人。生活困窮者を支援する団体のほか、個人へ直接支援も受け付けている。支援する食材は米やパン、果物、野菜など多岐にわたる。理事長の本岡さん=052(913)6280

（佐藤裕介）

フードバンクは食品仕組みだ。メーカーや経営店など、食品メーカーや個人社員は、退職後は個人で生活困窮者の支援に取り組み、二〇一〇年にセカンドハーベスト名古屋に参加した。

「名古屋だけでも、七十団体に配給。これらの団体が、高齢者や障害者に食品を届ける活動で、毎年この何倍、何十倍の食材が捨てられていくあまりにもうたい」と本岡さん。昨年のおおみそかに、おせち料理に使う食料も贈った。

「欧米では、フードバンクの仕組みが定着しているが、日本でも少しずつ普及が始まっている」と本岡さん。一人でも多くの人が寄付をする、といふことに積極的になれば、助かる人たちも大きくなるはず。これからも頑張りたい」と話している。

（佐藤裕介）

参考文献参考文献

※1 社会福祉法人全国社会福祉協議会

平成22年3月発行「生活支援サービス立ち上げマニュアル4ふれあい・いきいきサロン」



独立行政法人福祉医療機構
平成26年度社会福祉振興助成事業

食でつなげる 高齢者コミュニティ支援事業報告書

平成27年3月31日発行

【発 行】

認定特定非営利活動法人セカンドハーベスト名古屋

〒462-0845

愛知県名古屋市北区柳原3-4-2 小菅ビル1F

TEL:052-913-6280/FAX:052-913-6281

E-mail:info@2h-nagoya.org

URL: <http://www.2h-nagoya.org/>